

「よくあてはまる」で評価
( )内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A...とても良好
B...良好(目標)
C...検討が必要
D...再検討・改善

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
[a...よくあてはまる, b...あてはまる, c...あてはまらない, d...まったくあてはまらない]
※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月, 12月(現状), 結果分析・改善, 学校運営協議会, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main categories: 'School Management' and 'Student Learning'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリ勉タイム(自主学習時間)の確保	⑧生徒	家で、ガリガリノートやワーク等を使って、学んだことを復習している。	a+b A-90% B-80% C-70%	72%	84%	86%	07月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒が4月の72%から84%へ12%増加した。目標には到達しなかったが保護者、教員とも増加傾向にある。 【7月評価時点での成果と課題】 教師の評価は100%であり、具体的な取組(plan)を実行できているということが分かる。それに合わせて生徒の評価も上がっているのは良い傾向である。しかし、保護者の評価があまり改善されていない。ほとんどの生徒が毎日の家庭学習の課題に取り組み、提出もできているのに評価が低いのは、保護者が見ていないところを取り組んでいるからなのか、それ以上の取り組みを求めているのかが分からないが、まずは生徒の評価をA評価へ近づけていくことが重要である。 ○目標・計画の再設定(Action) 具体的な取組を継続して確実に実施していく。さらに、家庭学習の取組は個人によって差が大きいため、個別に家庭学習の取組について助言することで家庭学習への意欲を高めていく。また、授業の中でも、家庭学習で取り組める内容を紹介することで充実させていきたい。学校で取り組ませている内容については、テトル等で保護者への周知も行っていきたい。	<前期>小中連携で、生徒指導も含めて一緒に取り組んでいくことで、二学期は家庭学習習慣を小学校と中学校が揃えて取り組む予定である。かつては取り組んでいたことかもしれないが、復活させられそうなので、一緒に学習が充実するようにしていきたいと思う。  <後期>小学校のアンケートも中学校と同じで、子どもは高いが保護者は低い。求めるものが違うのだろうが、子ども達は学童で宿題をして、家でまったくしていないようで、保護者が子どもの学習状況を把握できていない。保護者が子どもの学習状況を知り、「できるようになったね」「うまくいったね」といった褒める場面などがあるといいと思う。	【評価を終えて】 生徒のアンケート結果では、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒が4月の72%から86%へ14%増加し、目標に到達することができた。ほとんどの生徒が家庭学習として出された課題を期限を守ってきちんと取り組んでいた結果であると考えられる。しかし、保護者のアンケート結果では、肯定的評価は64%と低く、目標に到達することができなかった。11月以降は下校バスを待つ時間に学習を終わらせているため、家庭で学習する姿が見られなかったことも保護者の評価が低い一因かもしれない。二学期に生徒会が学習時間調査を行い、家庭学習に対する意識を高める取り組みを行ったが、今後も生徒が主体となって家庭学習への意識を高める取り組みを考えていきたい。 【求める生徒の姿】 ・主体的に家庭学習に取り組む生徒 【具体的な取組】 ・自主学習ノート(ガリガリノート)の取り組みを継続する。 ・生徒が主体となって家庭学習への意識を高める取り組み(学習時間調査など)を行う。
			⑦保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A-85% B-75% C-65%	60%	66%	64%				
			1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	75%	100%	86%				
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つuckerことができる生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う	⑩生徒	友達の良い行いや長所を見つけている。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	42(95)	45(97)	43(95)	07月評価(Check) 【評価・分析】 「友達の良い行いや長所を見つuckerことができる。」の項目では、4月からあまり変化はなく目標には達成しなかった。「あてはまる」まで見ると良好である。「友達に対して思いやりの心で行動している」は4月と同じで目標を達成することができた。 【7月評価時点での成果と課題】 行事において友だちや他学年のよいところを見つuckerことができ、行事後に振り返る場面があった。また、生徒会で「ありがとう」の感謝を伝える取り組みを行い、生徒の意識が高まった。こうした活動を継続することによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。一報、教師の「よくあてはまる」が38%であり、教師の働きかけに課題がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒会と連携し、生徒同士が互いの良さを認め合ったり、感謝の気持ちを伝え合ったりする機会を設定していく。また、教師自身が生徒たちの良いところを見つけて伝えていく取組を充実させることで、生徒たちの思いやりの心を育てていきたい。C4thの「いいことみつけ」を活用し、指導記録的な側面だけでなく、生徒の良さも記録し、共有できるよう運用する。	<前期>継続していく。 <後期>継続していく。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つuckerことができる」の項目では「よくあてはまる」が4月からほとんど変わらなかった。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目では「あてはまる」まで含めた数値が7月から12%減少した結果となった。特に、以前までは日常的に取り組んでいた「とりごえもの羽」の活動がなくなったことが結果に影響しているように思える。一人一人の良さを引き出すような声かけが大きな効果につながることを指導していきたい。そして、道徳教育にも力を入れ、他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。 【求める生徒の姿】 ・互いの良い行いや長所を見つuckerことができる生徒 【具体的な取組】 ・行事など機を見て「とりごえもの羽根」など、友達の良い行いや良いところを共有する機会を設ける。 ・毎日の生活を通して教師の働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳教育の取組
			1 5 教師	互いの良いところを見つucker、伝え合うための指導を行っている。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	38(100)	38(88)	38(76)				
			⑩生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	95%	95%	83%				
			⑩保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	95%	98%	93%				
			1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育つよう指導している。	a+b A-95% B-85% C-75%	76%	100%	86%				
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑩生徒	友達と意見を出し合ったり、協力し合ったりして学校生活をより良くしようとしている。	a+b A-95% B-85% C-75%	86%	92%	88%	07月評価(Check) 【評価・分析】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見ると91%と概ね良好であるが、「よくあてはまる」は36%と4月から1%下がり、目標を達成することができなかった。保護者の評価は91%と変化がなく、教師の働きかけ「よくあてはまる」は4月から上昇した。また、「学校生活をよりよく」の項目は6%上昇した。 【7月評価時点での成果と課題】 普段から、校舎内で出会った者同士のあいさつはできているが、生徒会等であいさつ運動等を行いさらにより良いものになるよう活動していったり、教師側も挨拶を返すだけでなくそうした良い行いを認めてあげる声かけが必要である。自律清掃について、心を磨くという姿勢を意識している者は少ないように思う。清掃に限らず学校生活において必要であると思われる課題に自ら進んで取り組む姿勢を育てていく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒会とも連携して、一日を通してよりよいあいさつができるようになっていきたい。また、生徒達が自分たちの学校生活の中での課題を見つucker、解決できるように学級活動や委員会活動等を充実させていきたい。	<前期>大人でも挨拶しない人はいるが、社会に出た時に挨拶できる人とできない人で一番最初にそれを評価される。子どもは、学校内や知っている人には挨拶するけど、外ではできなかったりする。社会に出たときに挨拶はやはり一番大事だと思う。だから、挨拶運動をわざわざやって、子供達にあいさつできるようにしようというのは大事なことだと思う。いまのうちに何か仕掛けや働きかけをしていくことは大事である。  <後期>挨拶に関しては、「どこでも」「誰に対しても」という言葉があるため、中学生にとってはハードルが高いと判断していて、AではなくBで答えているのが多いかと思う。挨拶運動で立っているときや地域の行事では、挨拶はできているように思う。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目については、「よくあてはまる」のみを見れば目標を達成することはできなかったが、「あてはまる」まで見れば90%と良好な結果であった。委員会活動での挨拶運動で生徒の意識を啓発できたように思う。しかし、以前にくらべると教師側から挨拶をしない挨拶ができていない生徒もおり、自信を持って「よくあてはまる」と回答できるように、自ら進んで挨拶することの大切さを日常生活や道徳の時間等を使って指導していく必要がある。 意見を出し合うことはほぼできているが、課題点を見つucker意識はあまり高いとは言えない。日常生活における問題意識を提起できるような時間を設定するなどの工夫が必要だと思われる。 【求める生徒の姿】 ・大きな声で、自らすすんで挨拶している生徒 ・問題意識をもって自分たちで解決していかうとする生徒 【具体的な取組】 ・生徒会活動を中心とした挨拶運動の実施 ・学校行事や道徳、日常生活における挨拶の指導 ・学校生活における課題点を話しあえるような場面を設定
			1 7 教師	授業だけでなく、生徒会や委員会活動、学級活動を通して子供主体の時間を設定している。	a+b A-95% B-85% C-75%	88%	100%	100%				
			⑩生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	37(90)	36(91)	33(90)				
			⑩保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	91%	91%	90%				
			1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	25(100)	50(88)	63(88)				
3	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑩生徒	地域に関心を持ち、ジオ学習に取り組んでいる。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	23(79)	40(83)	40(85)	07月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、ジオ学習に取り組んでいる」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は17%上がった。「地域とつながりを感じる機会がある」の割合は91%と、4月から若干増加した。 【7月評価時点での成果と課題】 各学年の総合的な学習の時間でジオ学習が始まり、また、ジオパーク遠足や城山整備作業を通して、地域とのつながりを感じることができた。それぞれの学習において、自ら考え、学び、地域への理解が深まるような手立てが必要である。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に計画的に活用する。また、活動の後は振り返る機会を持ち、地域の良さを実感できるような場面を設定する。	<前期>継続していく。  <後期>地域行事への中学生の参加は、準備など素早く動いてくれてとても助かる。このような経験が大人になったときに、地域に関心を持つことにつながると思う。小学生中学生が地域の活動に参加することはいいことだと思う。大人からするととても助かりいいと思うが、子どもはどう思っているのか。子どもの意見を聞くことができる場があるといい。来年度の取り組みとしたい。	【評価を終えて】 「地域に関心を持ち、ジオ学習に取り組んでいる」の項目では7月と変化はなく、目標を達成することができなかった。「地域とのつながりを感じる機会がある」の項目においては7月から6%減少した。今年度は山城サミットや地域との合同開催の文化発表会、敬老会と合同で防災フェスを行うなど、その他にも地域の方々関わっているような学習活動を進めてきた。地域の良さを理解し、主体的に関わりを持てるように、今後も総合的な学習を中心に地域と連携した活動を行ってきたい。 【求める生徒の姿】 ・地域に誇りを持つ生徒 【具体的な取組】 ・地域の方々との連携によるふるさと教育の推進	
			2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように指導している。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	38(88)	50(88)	38(100)				
			⑩生徒	地域とつながりを感じる機会がある。	a+b A-90% B-80% C-70%	88%	91%	85%				
			2 2 教師	地域とのつながりを感じることができるよう指導している。	a+b A-90% B-80% C-70%	88%	88%	100%				